

保存版

お手元で保存
してください

香美町

防災ハンドブック

2022 年度版

あなたと、大切な人の命を守るために



令和4年3月
香美町

はじめに

～ いつも心にとどめておくべき、大切なこと ～

日本は自然災害の多い国です。

そして、いつ起こるかわからないのが、自然災害の怖さです。

万一の災害時に被害を最小限におさえるために大切なこと、

それは、**日ごろの心がまえ**と**備え**、そして**早めの避難**です。

この「防災ハンドブック」をご覧になって、

今すぐできることから、対策をはじめましょう。

ご自分や大切な人の命を守るのは、あなた自身です。

命を守る3つの「助」

①自助＝自分の命は自分で守る

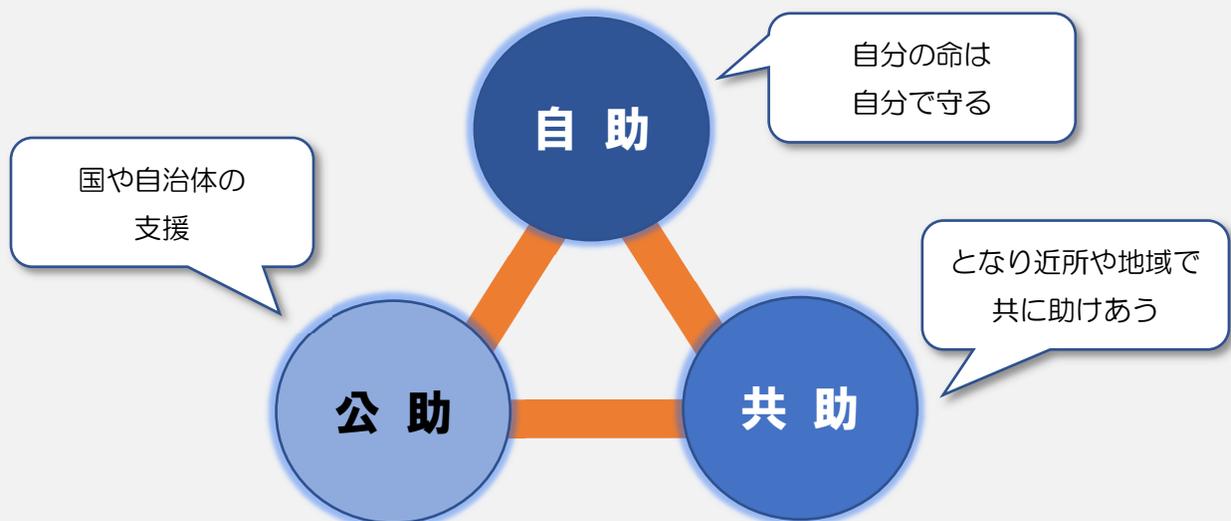
警察や消防などの救助・支援が行き届くまでには、どうしても一定の時間がかかります。「自分と家族の命は自分で守る」…この心がまえが最も重要です。

②共助＝となり近所や地域で共に助けあう

ひとり暮らしの人や高齢者、障害のある人などの命を守るには、地域の支援が欠かせません。

③公助＝国や自治体の支援

香美町では日ごろから防災対策の強化に努めているほか、災害時には国や他の自治体とも協力しながら、被害の拡大防止と被災者の救援にあたります。



目次

自 助

- まずは、自分と家族の命を守る……………P1
- 覚えておきたい「災害用伝言ダイヤル」…P2
- 正しい情報を入手するには……………P3
- ふだんの備え(備蓄・非常持ち出し品)…P7

共 助

- となり近所で助けあう……………P9
- 自主防災組織の役割……………P11

公 助

- 町の災害応急対策……………P13

地震対策

- 地震の揺れと想定される被害……………P15
- 地震発生時の初動から避難まで……………P16
- 自宅で地震に遭った場合の行動……………P17
- 自宅以外にいた場合の行動……………P18
- 住まいの地震対策(家の中)……………P21
- 住まいの地震対策(家のまわり)……………P23
- 住まいの地震対策(集合住宅)……………P24

津波対策

- 津波の危険から身を守る……………P25

風水害対策

- 集中豪雨・局地的大雨から身を守る…P28
- 土砂災害から身を守る……………P32
- 情報の種類を知る……………P34

感染症対策

- ウイルスなどから身を守る……………P36

避難の心得

- 警戒レベルと避難のタイミング……………P37
- 避難時の注意点……………P39
- 避難場所を知る……………P40
- 避難場所一覧……………P41
- 非常備蓄品／非常持ち出し品チェックリスト
……………P51



大きな災害が発生したら、国や自治体（県や町）の対策がいつせいにはじまります。しかし実際にその支援があなたのところに届くまでには、どうしても一定の時間がかかります。このため、家族も含めて「**自分の命は自分で守る**」という強い意志がきわめて重要となります。

いちばん大切なこと

～ 自分と家族の命を守るために ～

	内 容	関連ページ
日ごろから、しておくことや心がけ	災害発生直後の行動を日ごろからイメージし、訓練しておく。	16～20, 26, 27, 30 33, 37～39
	緊急時の情報入手手段を準備しておく。	3～6
	家族との連絡方法や集合場所などを決めておく。	2, 40～50
	災害に備え、非常食・飲料・救急セット・ヘルメットなどを備蓄しておく。	7, 8, 51
	住まいの耐震性を専門家に診断してもらい、必要な対策を行う。	23
	家具などの転倒防止対策、ガラスの割れ防止対策をしておく。	21, 22
	住まいのまわりに倒れそうなものや避難の障害になるものがあれば取り除く。	23, 24, 28
	家族と避難場所や避難所の場所を確認しておく。	38, 40～50
	避難場所や避難所へ行く道すじに、危険なものがないか、障害物がないか、実際に歩いてチェックしておく。	9, 39
	「香美町ハザードマップ」で、土砂災害などの危険か所を頭に入れておく。	30, 32
	家族といっしょにいない場合は、まず自分の安全を第一に考える。	48

大規模な災害では、電話がつながりにくくなることがあります。そんなときに家族や友人・知人とメッセージを交換できるサービスとして「**災害用伝言ダイヤル**」があります。

「災害用伝言ダイヤル」とは

- 災害発生時に電話がつながりにくくなった場合、安否確認などの伝言（音声メッセージ）を録音／再生できるサービスです。
- 自宅の電話のほか、公衆電話、携帯電話、スマートフォンなどから利用できます。
- 利用は無料です。

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

1 7 1 をダイヤルする

伝言を残す（録音）

1 を押す

暗証番号（4ケタ）を設定する場合は **3**

自宅の電話番号を、市外局番からダイヤルする

0 **x** **x** - **x** **x** **x** - **x** **x** **x**

1 を押す

ピッ！と鳴ったら録音開始
「〇〇に避難しました」

9 を押す

伝言を聞く（再生）

2 を押す

暗証番号（4ケタ）がある場合は **4**

連絡を取りたい被災地域の方の電話番号を、市外局番からダイヤルする

0 **x** **x** - **x** **x** **x** - **x** **x** **x**

1 を押す

メッセージを再生
「〇〇に避難しました」

災害伝言ダイヤルには、「体験利用日」があります。いちど試しておくとお安心です。

正しい情報入手するには

災害時には、正しい情報を知ることが大切です。何が起きているかわからないと不安になります。適切に行動したり、誤った情報にまどわされたりしないためにも、**信頼できる情報を手に入れられるよう**にしておきましょう。

なお、停電すればテレビもパソコンも使えません。必ず**複数の情報入手手段を確保**しておきましょう。

■情報入手の手段 1 防災ネット香美（ひょうご防災ネット）

何ができる？

主な機能

「マイ避難カード」の作成

速やかに避難行動がとれるよう、学びながら避難のタイミングや避難場所などを「カード」に保存します。

緊急情報や気象情報などを プッシュ通知

緊急情報や気象情報、避難所に関する情報など、役に立つ情報が提供されます。

避難場所を地図で検索

地図で避難場所を検索できます。

多言語対応

中国語、英語、フランス語をはじめ、12か国語で情報が入手できます。

音声読み上げ

「防災ネット香美」の利用のしかた (スマートフォン)

- 右のQRコードを読み取り、アプリをダウンロード。
- アプリを起動し、初期設定（言語、市町、今いる場所など）をする。
- 利用開始。

※アプリの利用料は無料ですが、通信料がかかります。



【Android の場合】



【iOS の場合】



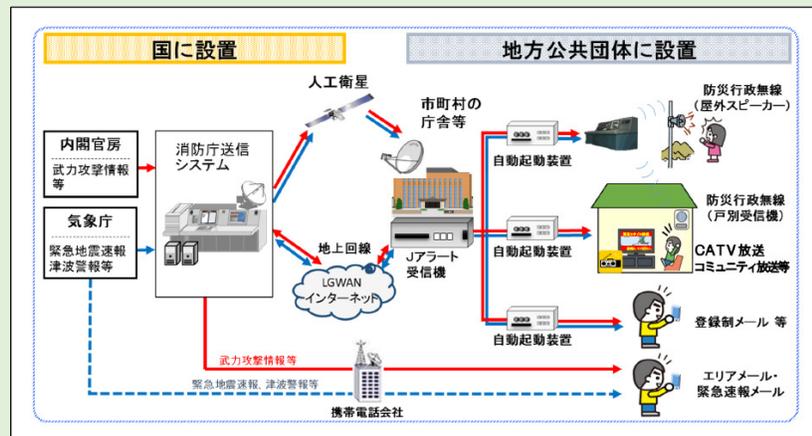
■情報入手の手段 2 防災行政無線

- 各家庭の受信機や屋外のスピーカーにより、お知らせします。
J-ALERT (ジェイアラート) の情報も、各家庭の受信機や屋外スピーカーから自動で放送されます。

J-ALERT (ジェイアラート) とは

「**全国瞬時情報システム**」のこと。

弾道ミサイルなど国民保護についての情報や、緊急地震速報、津波警報、気象警報などの緊急情報を、人工衛星や地上回線を通じて全国の地方自治体や携帯電話会社などに送信し、防災行政無線や携帯電話などを通じて瞬時に伝えるシステム。



J-ALERTのイメージ (総務省消防庁のホームページから)

■情報入手の手段 3 香美町ホームページ

- 災害時の緊急情報をはじめ、香美町のさまざまな情報をお届けします。
<https://www.town.mikata-kami.lg.jp>



正しい情報を入力するには

■情報入手の手段4 緊急速報メール

- 気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、香美町が発表した避難指示などの緊急情報を携帯電話やスマートフォンに配信します。登録料・受信料は不要です。
(対応機種かどうかは、説明書や各社のホームページ、購入店などでご確認ください)

【国が配信する情報】

緊急地震速報
津波警報
国民保護に関する情報

【香美町が配信する情報】

避難に関する情報
警戒区域情報
津波・土砂災害の情報

緊急地震速報とは

- 最大震度5弱以上の地震が予想された場合、テレビやラジオ、携帯電話、スマートフォン、防災無線などを通じて発表されます。
- 速報発表から揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒くらいです。
- 速報は的中するとは限りませんが、自分の身を守るため、最大限活用しましょう。

※震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

■情報入手の手段5 SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

- Twitter(ツイッター)、Instagram(インスタグラム)、Facebook(フェイスブック)などのSNSは、多くの人と情報のやりとりや共有ができ、災害時の安否確認や情報収集にも役立ちます。また、写真や動画で現地の状況を把握することもできます。



— SNS利用上の注意 —

SNSはだれでも簡単に情報発信ができるため、不確かな情報や誤った情報が広がりやすい特徴があります。

利用する場合は、ほんとうに正しい情報かどうか、考えながら行うことが大切です。

また、自分が不確かな情報や間違った情報、個人のプライバシーにかかわる情報などを発信しないようにしましょう。

■情報入手の手段 **6** 携帯ラジオ

- ラジオは古くからある情報機器ですが、停電時でも電池で放送が聞ける、小型で持ち運びがしやすいなど、災害時の情報入手手段として、すぐれたものです。ぜひ家庭に1台、電池で作動する小型の携帯ラジオを用意しておきましょう。



「ラジスマ」について

「ラジスマ」は、インターネットラジオとFM放送の両方でラジオが聞ける、スマートフォンのことです。インターネット環境がないところでもラジオを聞くことができます。パケット通信料はかかりません。

(利用にはラジスマ対応のスマートフォンが必要です)

■情報入手の手段 **7** Net 119 緊急通報システム

- 聴覚や発話に障害のある方のための緊急通報システムです。スマートフォン・携帯電話から、簡単な操作で音声によらない119番通報ができます。事前登録制ですので、利用をご希望の方は、美方広域消防本部のホームページで事前登録の方法を確認するか、美方広域消防本部までお問い合わせください。

ご利用対象者

- 聴覚・言語機能に障害があり、音声電話による通報が困難な方。
(身体障害者手帳が交付されている方や、音声電話による緊急通報が困難であると消防本部が認めた方)



Net 119で、できること

- 画面をタップ(タッチ)するだけで、消防に通報できる。
- GPS機能で、現在位置を知らせることができる。
- 選択肢をタップするだけで、状況を伝えられる。
- 音声読み上げ機能で、まわりの人に代理通報を頼める。

心だんの備え(備蓄・非常持ち出し品)

災害は、いつ発生するかわかりません。

いざという場合に備えて、食料品などの非常用の備蓄品を準備し、家族全員のわかりやすいところ、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

食料品や飲料水は、**最低3日分、できれば1週間分**を常に用意するとよいでしょう。

非常備蓄品

(チェックリストは 51 ページにあります)

● 食料品

缶詰、レトルト食品、インスタント食品、乾パン、栄養補助食品、チョコレート、ドライフルーツ、昔からある保存食…など。

● 飲料水

大人一人あたり1日3ℓは必要。軽くて割れにくいペットボトル入りが便利。給水を受けるための大きめのポリ容器なども用意。



● 燃料

カセットガスコンロや固形燃料、予備のガスボンベ…など。特にオール電化の家庭には必ず。

● 照明器具

懐中電灯やヘッドランプ、ランタン…など。

● 電源

小型発電機、小型蓄電池、小型太陽光発電パネル、携帯電話などの予備バッテリー、乾電池…など。

● 工具類

ロープ、バール、はさみ、のこぎり、ジャッキ、スコップ…など。

● その他

携帯トイレ、毛布、緊急用アルミシート、寝袋、カイロ、マスク、消毒液、筆記用具、予備のメガネ…など。

ローリング ストックの ススメ

保存食を日常の食事に取り入れ、食べた分だけ新しく買い足していくことをローリングストックといいます。**古いものから食べて新しいものを補充**することで、賞味期限切れを防ぐことができます。

また、災害時の食事づくりの練習にもなります。

※食料品以外の備蓄品も、壊れていないか、ちゃんと使えるかなど、年に一度はチェックしましょう。

大規模な災害や災害が長引いたときなどは、安全な場所に避難して避難生活を送ることになります。すぐに避難できるよう、非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックなどに詰めておき、**いつでもすぐに持ち出せるように**しておきましょう。

非常備蓄品とは別に用意しておくとい良いでしょう。

非常持ち出し品 避難時に忘れずに持ち出すもの (チェックリストは51ページにあります)

● 非常食・飲料水

缶詰や乾パン、栄養補助食品など、火を通さずに食べられるもの。水は持ち運びしやすいペットボトル入りがおすすすめ。**最低3日分**は必要。



● 携帯ラジオ

小型・軽量でAMとFMの両方が聞けるものを。情報入手だけでなく、避難生活の癒しにもなる。手動で充電できるものもある。

● 懐中電灯・ヘッドランプ

できれば一人にひとつずつ。両手が空くヘッドランプなら、さらに安全。予備の電池も忘れずに。

● 救急医薬品

キズ薬、ばんそうこう、包帯、解熱剤・痛み止めなど。常備薬があれば必ず用意。処方箋の控えも。

● 携帯電話・スマートフォン

情報を入力したり、連絡を取り合ったり、今や携帯電話は災害時も必需品。ナビ機能があれば、現在地を知ることできる。予備のバッテリーも忘れずに。



● 貴重品

現金、10円玉(公衆電話用)、銀行通帳、カード、健康保険証、印鑑、住民票のコピーなど。

● その他

ヘルメット、軍手、防寒着、下着類、携帯カイロ、ライター、ナイフ、ティッシュ、生理用品など。



停電対策 も忘れずに

最近の住宅は電化が進んでいるため、災害などで停電した場合、生活に不便が生じることがあります。日ごろから長期の停電に備えましょう。

- 非常備蓄品を備えておく。(P7参照)
- ストーブ(電気式以外)を備えておく。
- 自動洗浄式トイレの場合、停電時の水の流し方を確認しておく。
- パソコンは、UPS(無停電電源)に接続しておく。
- 避難するときはブレーカーを落としておく。

となり近所で助けあう

あなたのまわりに、高齢の人や障害のある人、病気の人やけがをした人、小さな子どもがいる人、日本語の理解が十分ではない外国の人などはいませんか。

こうした人たちは「**災害時要援護者**」（災害のときにまわりの支援が必要な人）と呼び、特別な配慮が必要です。

今は元気でも、高齢化や病気やけが、家族構成の変化などで、いつ自分が災害時に手助けを必要とするようになるかもしれません。

ふだんから**近所の人達とのつきあいを大切に**し、困ったときはいつでも声をかけあえるような関係をつくっておきましょう。

「災害時要援護者」とは

- 高齢者（特に高齢者だけの世帯、高齢者のひとり暮らし）
- 介護が必要な人
- 重い病気の人、けがをした人
- 障害のある人
- 乳幼児・妊婦・ひとり親世帯
- 外国の人…など

近所にこうした人がいないか、いれば元気に暮らしているか、ふだんから、さり気なく気にかけるようにしましょう。

ふだんから
心がける
こと

- ① **あいさつをする。声をかける**
日ごろからあいさつや声かけをして、いざという場合には助けあえるよう、交流を深めましょう。
- ② **防災訓練に参加する**
避難時にどのような手助けが必要かを確認するため、災害時要援護者といっしょに、防災訓練に参加しましょう。
- ③ **避難の道すじを確認する**
避難の道すじに放置自転車などの障害物がないか、段差など危険な場所はないかなど、災害時要援護者が安全に避難できるように点検しましょう。



災害時の 行動

① 協力しあって避難する

積極的によろすをうかがい、一人の災害時要援護者を複数の住民で手助けするなど、となり近所で支えあいながら避難してください。



② 安全に避難できるよう手助けする

歩くのが難しい、目や耳が不自由など、一人ひとりの状態に応じて、安全に避難できるよう配慮しましょう。



③ 大切なのは「おたがいさま」の気持ち

非常時こそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、温かい思いやりの心で接しましょう。



「避難行動要支援者名簿」に登録しましょう

香美町では、災害時に一人で避難することが難しい人を支援するため、「避難行動要支援者名簿」を作成しています。該当する方はご自分が登録されているか確認し、まだの場合は登録してもらおうようにしましょう。

【名簿に掲載される人】

- 要介護3以上の要介護認定者
- 身体障害者手帳の等級が下記に該当する人
 - ・視覚障害／1級～4級
 - ・聴覚障害／2級または3級
 - ・平衡機能障害および体幹機能障害／すべての等級
 - ・上肢機能障害／1級または2級
 - ・下肢機能障害／1級または2級
- 療育手帳（A）を所持する知的障害者
- 精神障害者保健福祉手帳（1級）を所持する人
- 災害時の避難行動に特別な配慮や援護を必要とする人のうち、特に支援が必要だと申し出た人
- その他、町長が必要と認める人

問い合わせ先／

香美町役場 福祉課 TEL. 0796-36-1964（直通）

自主防災組織の役割

「自主防災組織」とは？

- 地域の住民が協力し、防災活動を行う組織のことです。
- 「消防組織法」に規定された公共機関である消防団とは異なり、町会や自治会などが主体となった、住民の自主的な防災組織です。
- 日ごろは、防災知識の普及・啓発や、防災訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の備蓄といった活動に取り組みます。

災害が起きたときには、避難所の開設や運営、住民の避難誘導、初期消火活動の協力などに従事します。

特に大地震のような大規模な災害時には、津波の襲来、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、自治体や消防、警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限におさえることが自主防災組織の役割です。

あなた自身とあなたのまちを守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち」をつくりあげましょう。

■自主防災組織のふだんの活動

① 防災知識の普及

防災マップの作成、防災講習会の開催、地域のお祭りや運動会などでの防災イベントの実施など。



② 防災巡視・防災点検

各家庭の防災用品の点検、防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすいものの放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすいものの点検など。



③ 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常食、救急医薬品等の防災資機材や備蓄品の管理など。



④ 防災訓練の実施

避難所の開設・運営訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、情報収集・伝達訓練、給食（炊き出し）訓練など。



■自主防災組織の災害時の活動

避難所の開設・運営への協力

① 避難所の開設

避難所の解錠・開設、避難所施設の状況確認、避難者誘導・受入れ、避難者の居住場所と業務の割り振りなど。



② 避難誘導

地域住民等の安否確認、避難所への誘導、災害時要援護者の安否確認・援助など。



③ 食料品・物資関係

備蓄用の食料品や救援物資等の避難所への運搬および配布、炊き出しなど。



④ 衛生管理

水の確保・トイレの清掃、ゴミの搬出保管、施設内の清掃など。



情報の収集・伝達

町などと連絡を取りあい、災害に関する正しい情報を住民に伝達する。



初期消火活動

出火防止のための活動や消火器、消防水利の確保、バケツリレーなどによる初期消火活動など。



救出活動



負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動など。

医療救護活動



負傷者の応急手当て、救護所への搬送など。

普通救命講習会について

美方広域消防本部では、普通救命講習会を開催しています。心肺停止患者に対し、心肺蘇生法およびAEDを使用した救命処置などができることを目標とした講習会です。受講を希望される方は美方広域消防本部までお問い合わせください。

町の災害応急対策

町は、災害が発生した場合や、発生するおそれがある場合、「**香美町地域防災計画**」に基づき、**災害対策本部**や**災害警戒本部**などを設置して災害応急対策を進めます。また、災害の状況に応じて職員を配備します。

■組織の設置

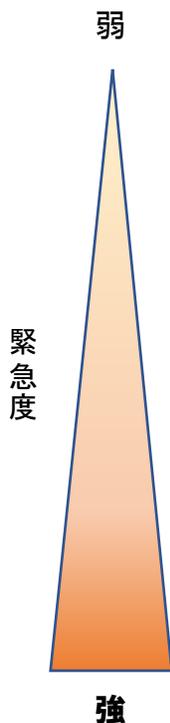
災害対策本部

災害が発生し、またはそのおそれがある場合において、災害応急対策をする必要があるとき、または災害応急対策に備える必要があるとき…などの場合に設置。

災害警戒本部

災害が発生するおそれがある場合において、その状況を勘案して災害応急対策に備える必要があるとき…などの場合に設置。

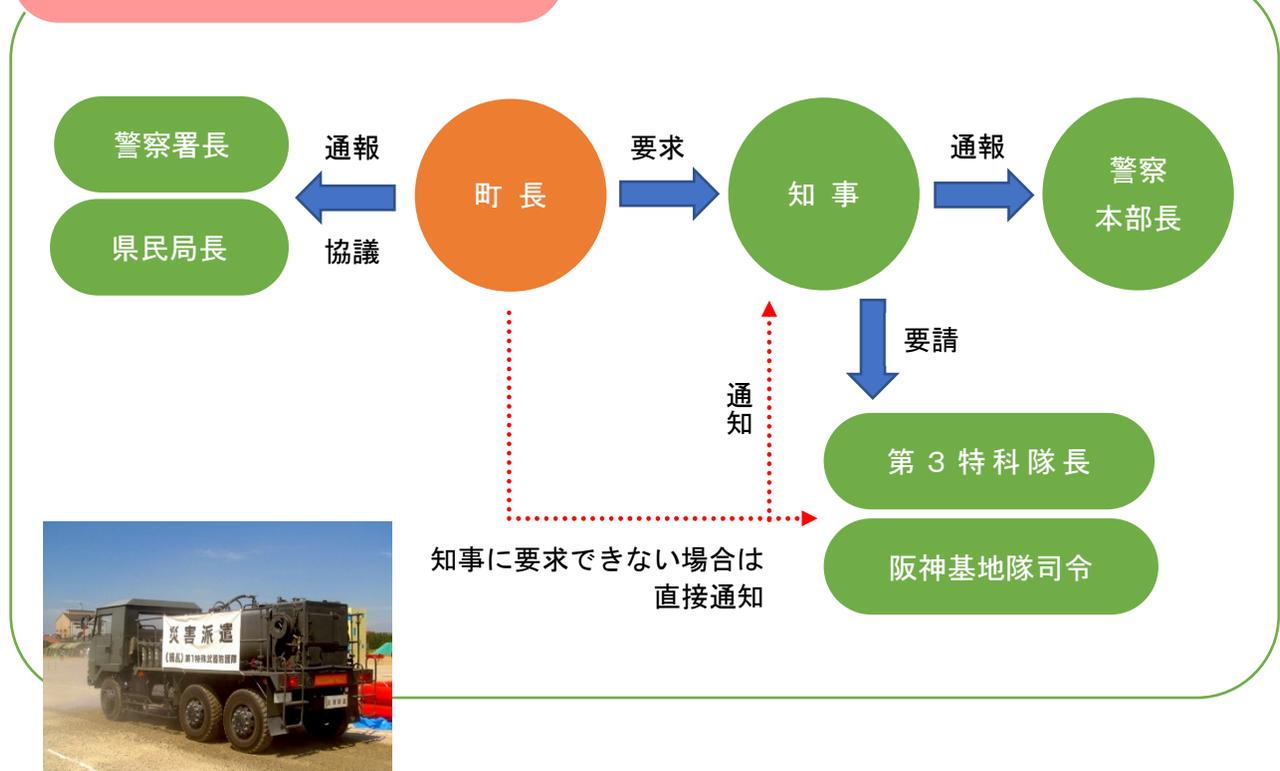
■職員配備体制



体 制	配 備 内 容
連絡員待機	防災担当者を配備し、情報の収集・伝達等にあたる体制。
第 1 号配備	所属人員のうちから、あらかじめ定めた少数（おおむね2割以内）の人員を配備し、主として情報の収集・伝達等にあたる体制。 ※第2号配備以上の体制への移行が予想される場合は、各課局長を含む。
第 2 号配備	所属人員のうちから、あらかじめ定めたおおむね5割以内の人員を配備し、災害対策にあたる体制。
第 3 号配備	原則として所属人員全員を配備し、災害応急対策に万全を期してあたる体制。

町は、災害が発生して住民の人命や財産の保護のために必要な場合は、自衛隊の災害派遣要請を行います。また、町職員だけでは対応が不十分になる可能性があるときは、近隣市町や県・民間団体に対して、応援要請を行います。

自衛隊災害派遣要請の流れ



香美町 地域防災計画 について

町では、「**香美町地域防災計画**」を策定し、防災体制の整備・強化に努めています。

この計画は「風水害等対策編」「地震災害対策編」「資料編」からなり、災害のさまざまな状況を想定して、日ごろの災害予防対策や、災害時の緊急対策、災害後の後始末などについて詳細に定めた、町の防災に関する基本的・総合的な計画です。

町ではこの計画に基づいて、ふだんから災害に強いまちづくりに努めています。

地震は、予測が困難な災害です。世界でも有数の地震国であることを念頭に、いざから万全の対策をとることが重要です。近い将来に発生すると予想されている南海トラフ地震では、香美町で震度5強の揺れが想定されています。

震度	揺れなどの状況
7	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。
6強	<ul style="list-style-type: none"> ● はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
6弱	<ul style="list-style-type: none"> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
5強	<ul style="list-style-type: none"> ● ものにつかまらなると歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
5弱	<ul style="list-style-type: none"> ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げたものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 ● 棚にある食器類が音を立てることがある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 ● 電灯などのつり下げたものが、わずかに揺れる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
0	<ul style="list-style-type: none"> ● 人は揺れを感じない。

大きな地震が発生したら、パニックになってしまうかもしれません。でもあわてて間違った行動をしたら、かえって危険なことになってしまいます。**正しい行動を何度でも練習・確認**して、身につけておきましょう。**自分の命を守るのは自分です。**

地震発生時にとるべき行動 ～ 自宅にいた場合 ～

地震発生!	<ul style="list-style-type: none">● 自分の身を守る 机の下にかくれるなど、まずは自分の身を守る。 ● 火の始末 大きな揺れが収まったら、まずは火元の確認。● 逃げ道の確保 ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。 ● あわてて飛び出さない
発生後 1～2分	<ul style="list-style-type: none">● 絶対に火を出さない 万一、出火していたら、すぐに初期消火。● 家族の安全を確認● ヘルメットをかぶり、靴をはく ガラスの破片などがあれば、室内でも靴をはく。● 非常持ち出し品を用意● 津波や土砂災害の危険が予想される場合は、すぐに避難
発生後 3分	<ul style="list-style-type: none">● となり近所の安否確認 特にひとり暮らしの高齢者など、支援が必要な人に積極的に声をかける。● 火事の予防 万一、近所で火が出ていたら、協力して消火する。● 余震に備える いったん揺れが収まっても、再度揺れることがあるので注意。余震の方が軽いとは限らない。
発生後 5分	<ul style="list-style-type: none">● 正しい情報の収集 テレビ、ラジオ、役場からの正しい情報確かめる。デマやうわさにまどわされない。● 避難の準備 役場からの指示にしたがう。危険が迫っている場合は、自分の判断ですぐに避難。 
発生後 5～10分	<ul style="list-style-type: none">● 子どもを迎えに行く 学校のルールにしたがう。家を出るときは、行先を書いたメモを目立つところに貼る。 ● さらに出火の防止 ガスの元栓をしめる。電気のブレーカーを切る。

自宅で地震に遭った場合の行動

避難時の服装について

- ヘルメットなどで頭部を守る。
- 動きやすく燃えにくい、丈夫な服装で。
必ず長そで・長ズボンを。破れやすく燃えやすい素材は避ける。
- 靴はハイキングシューズなど、底が厚くて固く、滑りにくいものを。水があふれている場合、長靴は避ける。
長靴は水圧で脱げたり、流されたりするおそれがある。

発生後 10分～ 数時間	●消火・救出活動 となり近所と協力して消火や救出活動を行う。	●常に状況確認を テレビ、ラジオなどで正しい情報を確認する。	●家屋倒壊などの危険があれば避難
発生後 ～3日目 くらい	●家屋倒壊のおそれがある場合は、避難所で生活する	●壊れた家には近づかない、入らない ●引き続き、余震に注意	●生活必需品は、自己備蓄でまかなう ●災害情報・被害情報の収集
避難生活 では	●町や自主防災組織の指示にしたがう	●避難所運営に積極的に加わる 避難所は、避難する人で運営する。	●集団生活のルールを守る ●助けあい、譲りあいの心を忘れずに



地震による道路の亀裂（平成30年 北海道）



地震による灯籠の被災（平成30年 大阪府）

■建物の中にいた場合

集合住宅では

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。



エレベーターの中では

- 自動で最寄りの階に停止したら、そこで降りる。
- 自動停止しない場合は、すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。



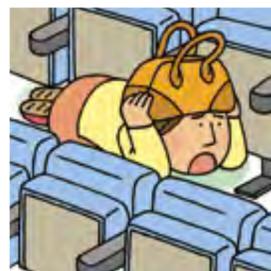
デパート・スーパーなどでは

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。
- 柱や壁際に身を寄せ、かばんや手荷物で頭を守る。
- 窓には近づかない。
- あわてて出口に殺到すると危険。店員の指示にしたがう。



劇場・ホールなどでは

- 座席の間にうずくまり、かばんや衣類で頭を守る。
- 頭上に大きな照明などがある場合は、その場から移動する。
- 係員の指示にしたがい、冷静に行動する。



自宅以外にいた場合の行動

地下街では

- 地下街は比較的安全と言われている。あわてて外に逃げるのではなく、大きな柱や壁に身を寄せ、揺れが収まるのを待つ。
- 地下街には約 60 メートルおきに出口がある。あわてず落ち着いて行動する。
- 火災が発生したら、ハンカチなどで鼻と口をおおい、体を低くして壁伝いに地上に向かう。



学校では

- 先生や校内放送の指示にしたがう。
- 教室にいるときは、すぐに机の下にもぐり、机の脚をしっかり持つ。
- 本棚や窓から離れ、安全な場所に移動する。



職場では

- 窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下に入り身を守る。
- 揺れが収まったら、ガス給湯器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。



■屋外にいた場合

路上では

- かばんや手荷物などで頭を守り、広場などに移動する。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意。住宅街ではブロック塀や門柱から離れる。
- 自動販売機の転倒に注意。
- 落ちるおそれを想定して、橋の上からはすぐに避難。



電車やバスの中では

- 停車の衝撃に備え、つり革や手すりにしっかりとつかまる。
- 網棚からの荷物の落下に備え、かばんや手荷物で頭を守る。
- 勝手に車両から降りず、係員の指示にしたがう。



海岸・がけ・河川の近くでは

- 海岸にいたら、ただちに高台や近くの高い建物、指定の避難場所に逃げる。
- がけの近くにいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れる。
- 河川の近くにいたら、土石流などの危険があるのですぐに離れる。



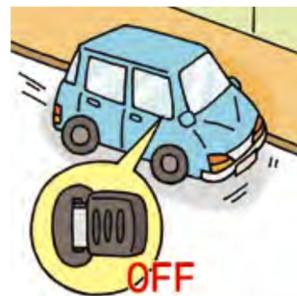
駅のホームでは

- 掲示板や看板などの落下物に注意する。
- 改札口に殺到すると危険。近くの柱などに寄り添い、構内アナウンスにしたがう。



車の運転中は

- 急ブレーキを避け、徐々にスピードを落として道路の左側に停止。エンジンを切る。
- 揺れが収まるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 緊急時に移動させる場合は、緊急車両の支障にならないよう考慮する。
- 車を離れるときは車検証など貴重品を持ち、キーはつけたままでロックしない。



住まいの地震対策(家の中)

家の中は危険がいっぱい。地震のときに家具が倒れて下敷きになったり、家具が出口をふさいで避難できなくなったりすることもあります。日ごろから、家具を固定するなどの対策を行いましょう。

■家の中の安全対策のポイント

ポイント①

家具のない安全なスペースを確保する

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。
無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう、配置を変える。



ポイント②

寝室や子ども部屋などに倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生したら、家具が倒れて逃げ遅れるおそれがある。特に子ども部屋や高齢者、障害のある人などがいる場合は注意。どうしても置かざるを得ない場合は、家具を固定する。



ポイント③

出入り口や通路にはものを置かない

いざというとき安全に避難できるよう、玄関などの出入り口や通路には、倒れやすいものやつまずきやすいものを置かない。



ポイント④

家具の転倒や落下を防止する

家具と壁や天井、柱の間に遊び（空間）があると倒れやすくて危険。必ず転倒防止対策を。また、高いところにもものを置かない。



● 食器棚

扉が開かないよう金具をつけ、中の食器が飛び出すのを防ぐ。

● 照明器具

くさりや金具で天井に3か所以上とめる。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープでとめる。直づけタイプがより安心。

● 住宅用火災警報器

煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる。「消防法」により、家庭での設置が義務づけられている。



● 窓ガラス

飛散防止フィルムを内側にはる。

● カーテン

防炎・難燃加工されたものを選ぶ。

● 本棚・タンスなど

なるべく壁面に接近させておき、上部をL字型金具などで固定する。または、下の手前側に板などはさみ、壁にもたれさせる。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結する。

● テレビ

できるだけ低い位置に置き、金具やロープ、装着マットなどで下面、柱、壁に固定する。

● 暖房器具

ストーブなどの暖房器具は、自動消火装置のあるものにする。

家具を固定できない場合

- 寝ている位置に家具が倒れてこないよう、向きを工夫する。



- 自分の上に家具が倒れてこないよう、机などで防御する。



- 家具が倒れてもドアが開くような位置・向きにする。



住まいの地震対策(家のまわり)

家のまわりにも、災害時に危険につながる場所や状況がたくさんあります。日ごろからチェックし、危険があれば改善や修繕を行いましょう。

■家のまわりの安全対策のポイント

● 雨どい・雨戸

雨どいの継ぎ目がはずれていないか、落ち葉や土砂などが詰まっているかチェック。雨戸は建付けが悪くなっているかチェック。不具合があれば修繕する。

● 屋根

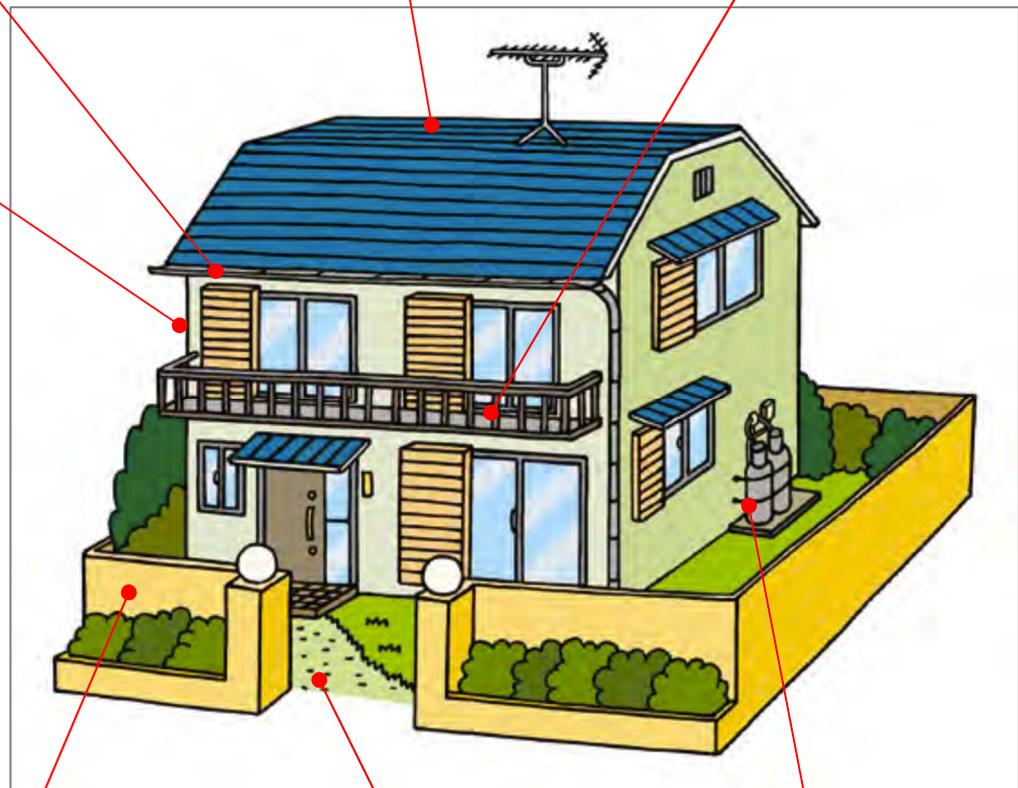
屋根瓦やアンテナが不安定になっていないか確認し、問題があれば補強する。

● ベランダ

整理整頓し、落下の危険がある植木鉢やエアコンの室外機などは、配置を変えるか固定する。

● 耐震性

古い住宅の場合、耐震性が十分か専門家に調べてもらう。



● ブロック塀

しっかりとした基礎がないもの、鉄筋が入っていないものは補強する。ひび割れや傾き、鉄筋にサビがある場合は修理する。

● 玄関まわり

自転車や植木鉢など、出入りの支障となるものは置かない。

● プロパンガス

倒れないように、しっかりと土台の上に置き、くさり壁に固定する。

マンションなどの集合住宅では、多くの人達が暮らしているため、一戸建て住宅とは違った防災対策が求められます。いざというときに備えて、自主防災組織や自治会を中心に、**防災訓練や住民同士の話しあい、防災設備の点検**などに取り組みましょう。

■集合住宅の安全対策のポイント

ポイント①

玄関をこじ開けられるようにする

玄関が開かなくなった場合に備え、ボールなどこじ開けられる道具を用意しておく。

ポイント②

通路にものを置かない

避難の妨げとならないよう、通路には自転車やものなどを置かない。古新聞や段ボールなど燃えやすいものも置かない。

ポイント③

非常階段・非常扉の点検

非常階段や非常扉の前後には絶対にものを置かない。非常扉がちゃんと開くか点検する。

ポイント④

ベランダの安全確認

避難ハッチの使い方を日ごろから確認しておく。避難器具やベランダの防火パネルのまわりには、絶対にものを置かない。ベランダや手すりの上に植木鉢などを置かない。



ポイント⑤

防災器具・防火設備の点検

共用部分に置いてある消火器や火災報知器、消火装置などの場所や使用方法を確認しておく。消火器の有効期限を確認する。



家庭に
1本
消火器を

いざという場合に備え、家庭に1本は消火器を備えましょう。集合住宅で通路など共用部分に消火器が置いてある場合でも、家の中にも用意しておけば、さらに安心です。

家庭用の小型の消火器は、ホームセンターやスーパーなどで手に入ります。

東日本大震災では、岩手・宮城・福島3県で亡くなった人の9割超が、津波による溺死でした。津波から身を守るには、「逃げる」以外に方法はありません。

津波についての正しい知識を身につけて、ふだんから津波を想定した避難行動を訓練、またはイメージトレーニングしておきましょう。

■香美町の津波想定

県が平成30年に公表した「日本海沿岸地域津波浸水想定図」によると、香美町では、**最大津波水位は余部で5.3m**（東京湾の平均水面が基準）、**津波の最短到達時間は相谷で13分**、**浸水域面積は123ha**と想定されました。

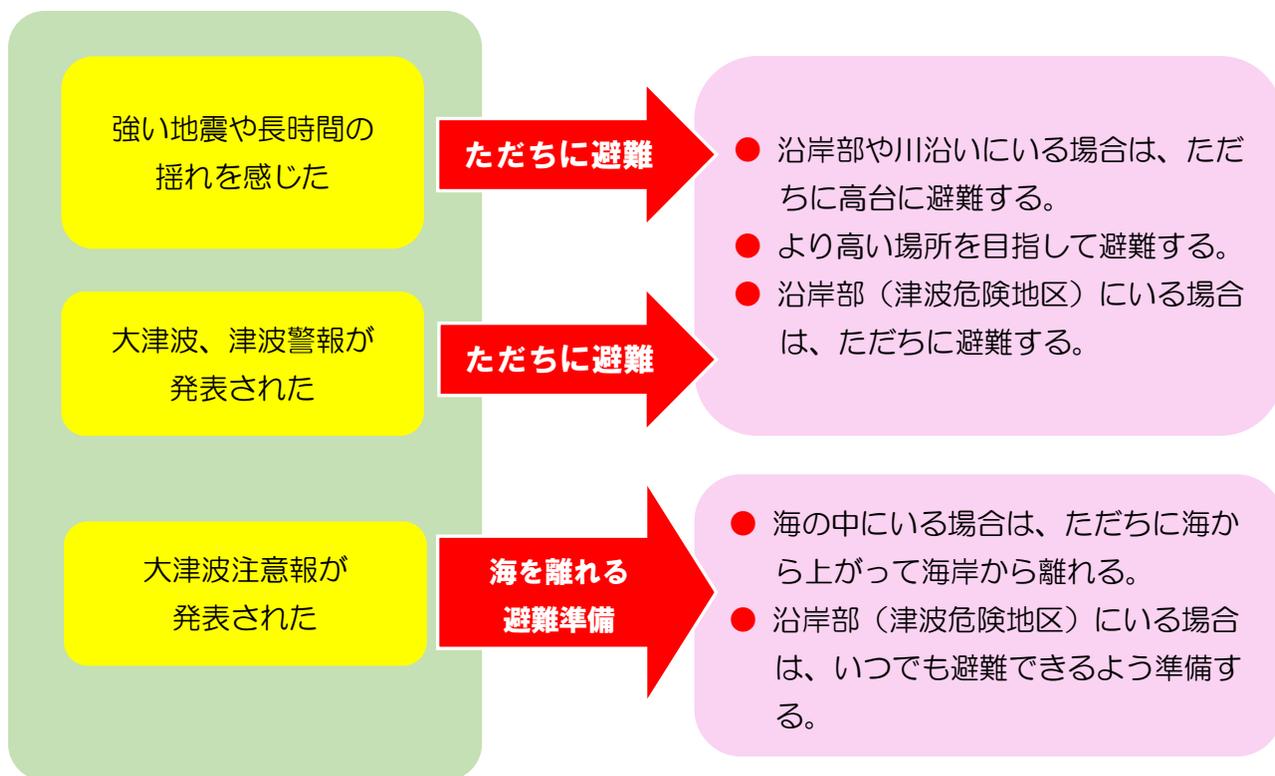
また、余部、香住、柴山、無南垣、相谷では、住宅地に2m未満の浸水が生じ、鎧、安木では漁業施設周辺や砂浜、田んぼなどへの浸水が生じると想定されています。

■津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m		
		5m		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m	表記なし	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

大津波警報は、特別警報に位置づけられています。

■津波から命を守る行動



避難後の心得

- 正しい情報をラジオやテレビ、携帯電話などで入手する。
- 自分で判断せず、警報や注意報が解除されるまで、絶対に動かない。
(津波は繰り返し来襲する)

■津波から避難するときのポイント

ポイント①

小さな揺れでも油断禁物！

小さな揺れでも大津波のおそれがあるので注意。(明治 29 年の明治三陸沖地震津波では、沿岸の震度が3程度だったにもかかわらず、大津波が押し寄せた)

ポイント②

「日本海は津波がない」を信じない

「日本海は津波がない」というのは俗説。過去に何度か、津波による被害が生じている。

ポイント③

引き潮がなくても津波は襲う

「津波の前には潮が引く」というのは、すべての場合に当てはまるわけではない。

ポイント④

津波は繰り返し襲う

津波は繰り返し、何度も襲ってくる。第一波より第二波、三波が大きくなる場合も。

ポイント⑤

津波の速さは予想以上

揺れから数分で津波が襲うこともある。揺れを感じたらすぐ避難！

ポイント⑥

海岸に近づかない

注意報・警報が解除されるまでは、ようすが気になっても絶対に海岸に近づかない。

ポイント⑦

満潮時は要注意

満潮時は水位が上がり、津波がより高くなる。

ポイント⑧

河川に近づかない

津波は川を逆流する。河川には絶対に近づかない。河川の近くから離れる。

津波から避難するときの注意点

- 防災無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などで正しい情報をすぐに入手する。
- 「遠く」よりも「より高く」を目指す。
- 遊びや釣りなどで海の近くに行くときは、家族に行先を伝えておく。
- 家の近くや仕事・買い物・レジャーなどでよく行く場所の近くで、避難できる高台や高い建物を確認しておく。
- 避難に車は使わない。

車で避難したら渋滞で動けなくなり、車ごと水に流されるおそれがある。



日本では、毎年のように台風による被害が発生しています。また近年は、局地的な集中豪雨も多発しており、風水害対策の強化が急がれています。予測が困難な地震とは違い、風水害はある程度、発生を予測することができます。

ふだんから予防策に努めるとともに、防災情報や気象情報に注意して**早め早めの対応**を心がけましょう。

■住まいの風水害対策のポイント

● 屋根

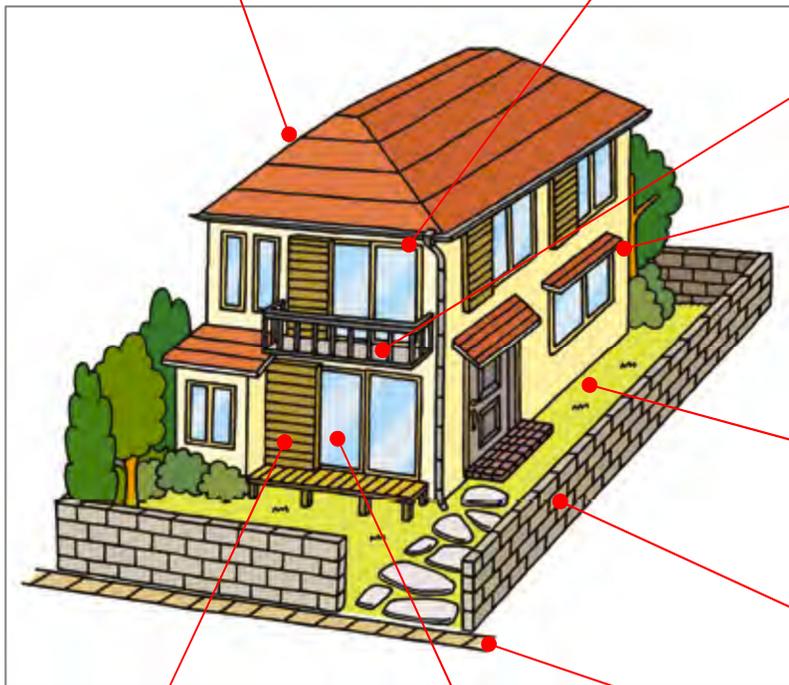
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれなどがないかを確認。

● 雨どい

継ぎ目や塗装のはがれ、腐りがないか確認。落ち葉や土砂があれば詰まらないよう掃除する。

● ベランダ

鉢植えや物干しざおなど、落下のおそれがあるものは室内に。



● 外壁

壁に亀裂がないか、板壁に腐りや浮きはないか、タイルに割れや浮きがないかなどを確認。

● 外まわり

ブロック塀にひび割れや破損がないか、プロパンガスのボンベは固定されているかなどを確認。

● 雨戸

ガタつきやゆるみなどがあれば補強する。

● 窓ガラス

ひびやがたつきがないか確認。強風が予想される場合は、外側から板でふさぐなどの対策を。

● 側溝

ゴミや土砂などを取り除き、排水をよくする。

● ブロック塀

ひび割れや破損があれば補強する。

集中豪雨とは、狭い範囲に数時間にわたり降り続ける豪雨のこと、局地的大雨は狭い範囲に急に降り出して数十分の短時間で終了する強い雨のことをいいます。

集中豪雨はある程度予測ができますが完全ではなく、局地的大雨は別名ゲリラ豪雨とも呼ばれる通り予測が難しいのが現状です。

気象情報だけではなく実際に起こっている現象から危険性を判断し、早めに行動することが重要となります。

■集中豪雨・局地的大雨の危険性

● 自分の居場所で降っていなくても危険

自分がいる場所で雨が降っていなくても、上流で降った雨の影響で、河川の氾濫（はんらん）など危険な状況になる場合がある。



● 短時間で水位が上がる

河川、溪流、下水管、用水路などは、激しい雨が降るとまわりから雨が流れ込み、数分から数十分で危険な水位となることがある。



● 注意報や警報がなくても危険

大雨や洪水の警報や注意報が発表される基準に達しない雨量でも、災害が発生するおそれがある。



● 下水の排水能力には限界がある

下水道の雨水排水能力を大きく超える時間雨量 100mm以上の豪雨が頻発している。



■身のまわりの変化に気づいたらすぐに避難

次のようなことに気づいたら、すぐに安全なところに避難しましょう。

こんなときは
すぐに避難

- 川の上流やまわりの空が真っ黒になった ⇒ **すぐに川から離れる**
- 雷が鳴った、稲妻を見た ⇒ **建物内に避難**
- 大粒の雨やひょうが降り出した ⇒ **建物内に避難**
- 大雨のとき、まわりより低い場所にいる ⇒ **高い場所へ避難**

■自宅で安全を確保する

避難所などに行くことだけが避難ではありません。一定の条件が確認できれば、自宅で安全を確保することも可能です。

自宅で避難するには…

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 避難所などへの移動に備えて貴重品などの非常持ち出し品を準備する。
- 気象情報をテレビ・ラジオ携帯電話などでチェックする。
- 断水に備えて飲料水などを用意する。
- むやみに外出しない。
- 家財道具や食料品、衣類、寝具などを2階以上に移動させる。
- 高齢者や乳児、病人などを安全な場所に避難させる。



3つの条件

がそろって
いないと、
自宅避難は
危険

家屋倒壊等氾濫
想定区域に入っ
ていない

浸水深より
も居室が
高い

食料品や水
などの備え
が十分

家屋倒壊等氾濫想定区域や浸水深は、「香美町ハザードマップ」で確認できます。
地震の場合は上記に加え、住まいの耐震性が十分であることが条件となります。

■浸水などから避難するときの注意点

ポイント①

- 動きやすく安全な服装で

ヘルメットなどで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴にする。底が厚くて固い、滑りにくい靴がよい。はだしや長靴は厳禁。



長靴は、上から水が入って足をとられたり脱げたりするおそれがある。

ポイント②

- 足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにして歩くと安全。



ポイント③

- 単独行動はしない

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結ぶ。



ポイント④

- 水の深さに注意

歩行可能な水の深さの目安は50cm。水の流が速い場合は20cmでも危険になる。危ないと判断した場合は無理をせず、高所で助けを待つ。



ポイント⑤

- 支援が必要な人に配慮を

高齢者やけがをした人、病気の人などは背負い、子どもには浮き輪などをつけて安全を確保する。



地震や大雨は、がけ崩れなどの土砂災害を引き起こします。土砂災害の被害を軽減するには、**ふだんからの備えが重要**です。

家族や近所の方と、まわりの危険な場所を確認し、災害に備えて**避難経路や避難場所について話しあって**おきましょう。

■土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ・山崩れ



雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人の住む家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。

こんな前兆現象に注意！

- がけからの水がにごる。
- 地下水や湧き水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。

警戒区域…町内 417 か所
特別警戒区域…町内 313 か所

地すべり



地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ移動する現象です。ひとたび発生すると、家や道路、鉄道など広い範囲に被害を与えます。

こんな前兆現象に注意！

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

警戒区域…町内 38 か所
特別警戒区域…町内 0 か所

土石流



長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂がいきなり下流へ押し流されます。勢いが強く、圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊していきます。

こんな前兆現象に注意！

- 山鳴りがする。
- 雨が続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木が混ざったりする。
- 腐った土のにおいがする。

警戒区域…町内 195 か所
特別警戒区域…町内 57 か所

■土砂災害から避難するときの注意点

ポイント①

- ほかの土砂災害危険区域は通らない

避難するときは、ほかの土砂災害危険区域は通らないようにする。



ポイント②

- 長雨や豪雨に注意

1時間に20mm以上、または降りはじめからの降雨量が100mm以上になったときには、土砂災害が発生するおそれがある。

ポイント③

- 前兆現象を知り、早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象（P32）が見られることがある。前兆現象を知ったときは、すみやかに避難する。

ポイント④

- 土石流に直面したときの逃げ方

土石流のスピードは、時速20～40kmととても速く、流れに背を向けて逃げても、追いつかれてしまう。土砂の流れる方向に対して、直角の方向に走って逃げる。

ポイント⑤

- 避難の余裕がないときの命を守る最低限の行動

比較的高い、鉄筋コンクリート造などのがんじょうな建物の、2階以上で斜面とは反対に位置する部屋に避難。



避難の タイミング

土砂災害は、突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして生命や財産を奪ってしまいます。前兆現象がみられたら、早めに避難しましょう。

特に住まいや今いる場所が「土砂災害警戒区域」にある場合は、すみやかに避難するようにしましょう。

「土砂災害警戒区域」は、「香美町ハザードマップ」で確認できます。

香美町では、災害対策に関係する気象や河川の状況などの情報を、常に監視しています。そして、住民に警戒や避難をうながすような状況が発生した場合は、防災行政無線をはじめとするさまざまな手段で、住民の皆さんに情報を提供します。

発表される警報などにどのようなものがあるのかを、知っておくことも重要です。

■気象情報などについて

(1) 気象警報の発表基準

香美町は、一次細分区域は「兵庫県北部」、市町村等をまとめた地域は「但馬北部」に属します。警報の発表基準は、以下のとおりです。

大雨	(浸水害)	表面雨量指数基準	23
	(土砂災害)	土壌雨量指数基準	168
洪水		流域雨量指数基準	矢田川流域=33.4、佐津川流域=13.1、湯舟川流域=18.1
		複合基準	矢田川流域=(13, 29.8)、佐津川流域=(7, 13)
		指定河川洪水予報による基準	—
暴風	平均風速	陸上	20m/s
		海上	25m/s
暴風雪	平均風速	陸上	20m/s 雪を伴う
		海上	25m/s 雪を伴う
大雪		降雪の深さ	12時間降雪の深さ 50cm
波浪		有義波高	6.0m
高潮		潮位	0.9m
記録的短時間大雨情報		1時間雨量	100 mm

(2) 特別警報の発表基準

気象庁は、大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪によって重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合、特別警報を発表します。発表された場合、住民の皆さんは、**ただちに命を守る行動をとる必要があります。**

現象の種類	発表基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

情報の種類を知る

(3) 土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、**土砂災害発生の危険度が非常に高まったとき**に、市町村長が避難指示などの災害応急対応を適切に行えるよう、また、住民の皆さんの自主避難の判断の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

(4) 水防警報等

香美町で、水防警報や水位情報周知河川の水位が避難判断水位(以下の基準)に達したときは、但馬県民局(新温泉土木事務所長)から町や関係機関に通知されます。

河川名	水位観測所	所在地	水防団待機水位(通報水位)	はん濫注意水位(警戒水位)	避難判断水位(特別警戒水位)	はん濫危険水位(危険水位)	水防警報1号(待機)	水防警報2号(準備)	水防警報3号(出動)
佐津川	佐津	香住区九斗	1.45	2.10	2.60	3.00	1.45	1.70	2.10
矢田川	香住	香住区油良	2.10	3.20	3.50	4.10	2.10	2.60	3.20
	村岡	村岡区川会	2.20	2.80	3.80	4.00	2.20	2.50	2.80
湯舟川	湯舟	村岡区村岡	0.90	1.20	1.50	1.60	0.90	1.00	1.20

区分	内容	備考
はん濫危険水位(危険水位)	特別警戒水位を超える水位で洪水による災害の発生を最大限警戒すべき水位	
避難判断水位(特別警戒水位)	警戒水位を超える水位で洪水による災害の発生を特に警戒すべき水位	避難指示発令の目安
はん濫注意水位(警戒水位)	出水時に水防管理者が水防団及び消防機関を出動させ、又は出動の準備をさせなければならない水位	高齢者等避難発令の目安 水防管理団体の水防活動の目安
水防団待機水位(通報水位)	量水標管理者(新温泉土木事務所長)が水防本部長に報告する水位	

(5) 積雪観測所

香美町内には、県の積雪観測所が以下のとおり設置されています。

観測点名	警戒積雪深(cm)	観測点名	警戒積雪深(cm)
香住	60	村岡	120
余部	80	味取	100
土生	120	大笹	180
秋岡	160	祖岡	170



令和2年以降、日本でも感染者が顕在化した新型コロナウイルスをはじめ、私たちのまわりには、病気の原因となるようなさまざまなウイルスや細菌が存在します。

日常生活においても、災害時の避難生活においても、適切な感染症対策に努めることが、自分の身を守るだけでなく、まわりの身を守るためにも重要です。

■ウイルスなどの主な感染経路と感染予防策

感染経路	特徴	予防策	主な病原体
空気感染	空気中のちりなどを介する感染で、咳やくしゃみ、会話をしたときに口や鼻から飛沫した病原体が空中を浮遊し、同じ空間にいる人がそれを吸い込んで感染する。	<ul style="list-style-type: none"> ● マスク（できればN95などの高性能のもの）を着用 ● 感染者はドアを閉めた個室へ移動し、サージカルマスクを着用 ● 十分な換気 	結核菌、麻疹ウイルス、水痘ウイルス、など
飛沫感染	大きな粒子を介する感染で、飛沫は1m程度で落下し、空中を浮遊し続けない。咳やくしゃみ、会話をしたときに口や鼻から飛沫した病原体を、近くにいる人が吸い込むことで感染する。	<ul style="list-style-type: none"> ● マスクの着用を徹底 ● 十分な換気 ● 共有部分の消毒 ● 「密閉」「密集」「密接」の回避 	インフルエンザ、風しんウイルス、おたふくかぜの原因のウイルス、新型コロナウイルス、など
接触感染	感染している人との接触や、病原体に汚染されているものを触ることで感染する。病原体がついた手で、目や鼻、口、傷口などを触ることで病原体が体内に侵入して感染する。	<ul style="list-style-type: none"> ● こまめな手洗いや手指消毒・ケアの際には手袋などの着用 ● 感染者に使用する器具などはできるだけ個人専用に ● どうしても共有する場合は、使用後に洗浄または消毒してから他の人に使用 	ノロウイルス、疥癬（かいせん）、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）などの耐性菌、新型コロナウイルス、など

参考／[入所系]障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル（厚生労働省）

こんな点にも注意

- 洗剤と流水を使い、指先から手首まで正しい手洗いを行う。
- 流水が使えない場合は、アルコールを含んだ手指消毒薬で指先から手首まで消毒する。
- マスクがない場合、咳やくしゃみをするときは、ティッシュや自分の腕で口と鼻をおおうなど、咳エチケットを徹底する。
- 避難所の居住区域は、土足厳禁を徹底。トイレの履き物は、できれば専用のものを用意してはき替える。
- 食中毒にも十分注意する。

災害が発生したとき、または発生のおそれがあるときは、気象状況や被害状況などを総合的に判断し、町が「警戒レベル」や「避難情報」を発令します。

防災行政無線や「防災ネット香美」などの情報に注意し、早め早めの避難を心がけましょう。

なお、**警戒レベル4（避難指示）が発令されたら、必ずすべての方が避難してください。**

■警戒レベルと避難情報、とるべき避難行動など

警戒レベル	避難情報等	住民の避難行動等	警戒レベルに相当する防災気象情報
5	緊急安全確保	すでに災害が発生している状況。安全な避難は困難。命を守る行動を！	氾濫発生情報 大雨特別警報…など
⚠ 警戒レベル4までに必ず全員が避難！ ▼			
4	避難指示	速やかに避難を！	氾濫危険情報 土砂災害警戒警報…など
3	高齢者等避難	避難に時間のかかる人やその支援者は避難を	氾濫警戒情報 洪水警報…など
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)	避難の準備、 避難行動の確認を	これらの情報を参考に、 自主的な避難行動をとる
1	早期注意情報 (気象庁が発表)	災害への心がまえを高める	

「避難勧告」は、令和3年5月に廃止され、「避難指示」に一本化されています。



— 柔軟な対応を —

警戒レベル3未満なら、避難の必要がないというわけではありません。また、突発的な異常気象や地震・津波など、避難情報が間にあわないケースもあります。

その場合は、災害の状況とご自身の事情などを考えて、自主的に避難しましょう。

■避難先の確認と確保を

行政が指定した避難場所や避難所だけが、避難場所ではありません。災害時にはどこにいてもすぐに避難できるよう、避難先の確認と確保をしておきましょう。

主な避難先

①行政が指定した避難場所など

このハンドブックや「香美町ハザードマップ」などを参考に、行政が指定する避難先の種類や場所などを確認しておきましょう。

②安全な親戚・知人宅

安全な高台や耐震性の高い住宅に住んでいる親戚や友人・知人と、災害時の避難について相談しておきましょう。

③安全なホテル・旅館など

「香美町ハザードマップ」を参考に、高台など安全な場所にあるホテルや旅館などを調べ、災害時の避難について問い合わせしておくとい良いでしょう。

④自宅での屋内避難

自宅の安全が確保されている場合は、状況によっては屋内で避難するという選択肢もありえます。**(必ずP30の「3つの条件」を満たしていること)**

■外部への避難が困難な場合は

家を出て外部へ避難することが困難な場合や、外へ出ることがかえって危険と判断される場合は、屋内で**命を守る最低限の行動**に努めましょう。

例えばこんな場合…

- 夜間や急激な降雨で外の危険か所がわかりにくい。
- 膝上まで浸水している。
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。
- 津波が迫っていて、安全な高台に避難できない。

浸水などによる建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近となり建物の2階以上へ緊急的に避難（垂直避難）し、救助を待つことも検討する。

※土砂災害などに巻き込まれるおそれがないことが条件。



■安全に避難するために

ポイント①

- 事前に準備を

ふだんから避難場所までの安全な道すじなどを確認しておく。

ポイント②

- 持ち物は最小限に

非常持ち出し品はリュックなどに入れて背中にかつぎ、両手は空ける。

ポイント③

- 動きやすく安全な服装で

ヘルメットなどで頭部を保護。靴はひもでしっかり締められるハイキングシューズや運動靴で。

ポイント④

- となり近所で声をかけあう

避難は2人以上で。となり近所で声をかけあって、集団で避難する。

ポイント⑤

- 水の深さに注意

歩行可能な水深は、約50cmまで。水の流れが速い場合は20cm程度でも危険。

ポイント⑥

- マンホール・側溝に注意

大雨が下水管に流れ込むと、マンホールのふたが開いてしまう場合がある。マンホールや側溝にはまらないよう注意。

ポイント⑦

- 車はできるだけ使わない

車で避難すると、こんな危険が

《地震・津波の場合》

- がれきや倒れた建物で動けなくなる。
- 余震で運転を誤り、事故につながる。
- 渋滞で動けなくなり車ごと津波に流される。
- 水圧で車のドアが開かなくなる。
- 水位が高くなると走れなくなる。排気ガスが車内に逆流する。

《風水害の場合》

- がけ崩れなどで動けなくなる。
- あふれた水の中の障害物に衝突する。
- 渋滞で動けなくなり車ごと水に流される。
- 水圧で車のドアが開かなくなる。
- 水位が高くなると走れなくなる。排気ガスが車内に逆流する。

渋滞の原因をつくり、緊急車両や避難者の妨害になる。

※高齢者や病人・けが人がいる、車で避難したほうが安全…そんな場合は、まわりの安全に十分気を配り、落ち着いて運転を。

■避難場所の種類

町が指定する避難場所には、「指定避難所」「一時（いちじ・いっとき）避難所」「広域避難所」「福祉避難所」の4種類があります。最寄りの避難場所を確認しておきましょう。

名 称	特 徴
指定避難所	ある程度長期の避難が想定される場合に、一定期間滞在するための場所。
一時避難所	災害の危険から緊急的・一時的に避難するための場所。
広域避難所	災害が広域にわたった場合に避難するための場所。
福祉避難所	高齢者や障害のある人などで、一般の指定避難所では生活が困難な人を受け入れるための場所。

それぞれ役割が異なりますが、状況に応じて、まずはいちばん安全な避難場所に避難してください。

避難所の 運営に ついて

避難所の運営は、避難した住民の皆さんが自主的に行うこととなります。次の点に注意して、安全で快適な避難生活となるよう心がけましょう。

- 「認めあい」「思いやり」「ゆずりあい」の気持ちを持って、互いに助けあいましょう。
- 性別や年齢などで役割を決め付けず、それぞれの個性や知識・経験、得意・不得意などに応じて、適切に役割を分担しましょう。
- 特定の人に負担が片寄らないように、配慮しましょう。
- 何ごとも、みんなの話しあいで決めるようにしましょう。少数意見にも、耳を傾けましょう。
- 避難所の安全確保と衛生管理には、十分に気をつけましょう。
- 避難生活が長期化すると、ストレスがたまり、心身の不調につながります。適度な運動や娯楽なども取り入れ、ストレスを解消しましょう。

■避難場所一覧

《表の印の見方》

災害の種類	印	意味
洪水	○	安全な利用が可能な施設。
	△	浸水想定区域内にある施設のため、利用時に注意が必要な施設。
土砂災害	○	安全な利用が可能な施設。
	△	土砂災害危険箇所内、土砂災害警戒区域内にある施設のため、利用時に注意が必要な施設。
地震	○	昭和 57 年以降に建てられた新耐震基準を満たす施設。
	△	昭和 56 年以前に建てられた施設で、利用時に注意が必要な施設。

【香住区】

(1) 指定避難所 ある程度長期の避難が想定される場合に、一定期間滞在するための場所

施設名	面積 (㎡)	収容人数	風水害		地震
			洪水	土砂災害	
香美町立香住小学校(体育館)	1,139	379	△	○	○
香美町立奥佐津小学校(体育館)	472	157	○	○	○
香美町立佐津小学校(体育館)	515	171	△	○	○
香美町立柴山小学校(体育館)	889	296	△	△	○
香美町立長井小学校(体育館)	509	169	△	△	○
香美町立余部小学校(体育館)	525	175	△	△	○
香美町立余部小学校御崎分校	50	16	○	△	○
香美町立香住第一中学校(体育館)	1,550	516	△	△	○
佐津体育館	928	309	△	△	○
兵庫県立香住高等学校(体育館)	1,920	640	△	○	○
香美町立柴山保育所	450	150	△	△	○
香住区中央公民館	3,032	1,010	△	○	○
香住文化会館	1,668	556	△	○	○
香美町保健センター	931	310	△	○	○
奥佐津地区公民館	379	126	△	○	△
佐津地区公民館	422	140	△	○	△
柴山地区公民館	576	192	△	△	△
長井地区公民館	274	91	△	△	△
余部地区公民館	489	163	△	△	○

避難場所一覧（香住区）

（２）一時避難所 災害の危険から緊急的・一時的に避難するための場所

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
境区会館	△	○	△
一日市区公民館	△	○	△
若松コミュニティセンター	○	○	○
香美町商工会	△	○	△
香住区公民館	△	○	△
西香住公民館（ふれあいホール）	△	○	○
七日市区公民館	△	○	○
駅前コミュニティセンター	△	○	○
森会館	△	○	△
間室区公民館	△	△	○
油良区会館	△	△	△
矢田区会館	△	△	△
下浜公会堂	△	○	○
九斗会館	△	△	○
米地公民館	○	△	△
丹生地構造改善センター	○	△	○
西下岡区公民館	△	△	△
下岡会館	○	○	○
上岡会館	△	○	△
隼人公民館	△	○	○
畑公民館	△	△	△
大梶公民館	△	△	△
旧奥佐津小学校三川分校	△	△	△
土生区会館	○	△	○
相谷公民館	○	△	△
奥安木構造改善センター	△	△	○
浜安木公民館	○	○	△
訓谷会館	△	△	○
無南垣構造改善センター	△	○	○
浦上公民館	○	△	△
上計ふれあい会館	△	△	○
沖浦区公民館	○	△	△
守柄公民館	△	△	△
加鹿野公民館	△	△	△
三谷公民館	△	△	△
大谷区公民館	△	△	△
大野公民館	○	△	△

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
小原区公民館	△	○	○
中野公民館	△	△	△
藤農林漁家婦人活動促進施設	△	○	○
八原公民館	○	△	△
市午会館	△	△	△
梶原公民館	○	△	△
浜会館	△	○	○
西会館	○	△	○
御崎活性化施設	○	○	○
鎧公民館	○	△	△
長福寺（一日市）	○	△	○
願行寺	○	△	△
本誓寺	△	○	△
帝釈寺	○	△	△
西迎寺	○	△	△
幸徳寺	○	△	△
西光寺	△	△	△
真徳寺	○	○	△
弥勒寺	○	○	△
極楽寺	○	△	△
光永寺	△	△	△
帰迎寺	○	○	△
遍照寺	△	△	△
長福寺（余部）	○	△	△
安養寺	○	△	△
但馬漁業協同組合香住本所	○	○	△
但馬漁業協同組合柴山支所	○	○	○
J A たじま香住支店	△	○	△
香住自動車教習所	△	○	△

（３）広域避難所 災害が広域にわたった場合に避難するための場所

施設名	面積 (㎡)	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
香住小学校グラウンド	6,600	△	○	○
香住第一中学校グラウンド	15,791	△	△	○
佐津グラウンド	14,687	△	△	○
香住高等学校グラウンド	19,767	△	○	○

避難場所一覧（香住区／村岡区）

（４）福祉避難所 一般の指定避難所では生活が困難な人を受け入れるための場所

施設名	収容人数	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
公立香住病院老人保健施設「ゆうすげ」	12	△	○	○
特別養護老人ホーム「しいの木荘」	20	△	△	○
香住地域福祉センター	20	△	○	○
夕風の丘	50	○	○	○
デイサービス 知恵の輪	20	△	○	○

※収容人数は要介護者1名に対し、介助者1名を含む。

《村岡区》

（１）指定避難所 ある程度長期の避難が想定される場合に、一定期間滞在するための場所

施設名	面積(m ²)	収容人数	風水害		地震
			洪水	土砂災害	
香美町立村岡小学校（体育館）	937	312	△	△	○
香美町立兎塚小学校（体育館）	1,001	333	○	△	△
香美町立射添小学校（体育館）	854	284	△	○	△
香美町立村岡中学校（体育館）	1,287	429	△	△	○
兵庫県立村岡高等学校（体育館）	2,208	736	○	△	○
射添体育館	1,200	400	△	○	○
村岡体育館	971	323	○	△	△
福岡体育館	1,787	595	△	△	△
旧日影体育館	266	88	△	○	△
旧味取体育館	465	155	△	△	△
山田体育館	450	150	○	○	○
射添地区公民館	486	162	△	△	○

（２）一時避難所 災害の危険から緊急的・一時的に避難するための場所

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
東上区集会所	△	○	○
東中区集会所	△	○	△
本町区集会所	△	○	○
野々上区集会所	○	○	○
殿町区集会所	△	△	○
水上区集会所	○	△	○

避難場所一覧（村岡区）

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
川上区集会所	△	○	○
中西区集会所	○	△	△
新町区集会所	○	○	○
西本町区集会所	△	○	○
村岡区中央公民館	○	△	△
用野区集会所	○	△	○
鹿田区集会所	△	△	○
相田区集会所	△	○	○
神坂区集会所	○	○	○
旧神坂子育て・子育て支援センター	○	△	○
萩山公民館	○	△	○
板仕野区集会所	○	○	△
大糠区集会所	○	△	△
村岡ファームガーデン	○	△	○
光陽区集会所	△	○	○
高井区集会所	△	△	△
高井子育て・子育て支援センター	△	○	○
寺河内区集会所	○	△	△
耀山区集会所	○	△	△
市原区集会所	○	△	○
兎塚地区公民館	○	△	○
横町会館	○	○	△
八幡会館	○	△	△
八井谷区集会所	○	△	○
大野区集会所	○	○	○
口大谷区公民館	△	○	○
中大谷区集会所	○	△	△
旧大谷子育て・子育て支援センター	△	△	○
大笹区公民館	△	△	△
大笹区集会所	△	△	△
高坂区集会所	○	△	○
池ヶ平区集会所	○	○	△
和池区公民館	○	△	△
森脇農業構造改善センター	○	○	○
黒田公民館	△	△	○
宿区集会所	○	○	○
日影区集会所	○	○	△
作山区集会所	△	△	○

避難場所一覧（村岡区）

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
入江区集会所	△	○	△
和佐父区集会所	○	△	○
和田公会堂	△	○	○
小城区集会所	○	△	○
長板公民館	○	△	○
長板構造改善センター	○	△	○
熊波公民館	○	△	○
相岡区集会所	○	△	△
丸味区公民館	○	△	○
川会公会堂	△	△	○
高津公会堂	△	△	△
長須区公民館	△	○	○
味取区集会所	○	△	○
村岡アグリファーム(株)・むらおか夢アグリ(株) 事務所兼みそ工房	△	△	△
原区公民館	△	△	○
長瀬公会堂	△	△	○
山田区集会所	△	△	○
旧山田子育て・子育て支援センター	○	○	○
境区集会所	△	△	△

（３）広域避難所 災害が広域にわたった場合に避難するための場所

施設名	面積 (㎡)	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
射添小学校グラウンド	5,350	△	○	○
射添グラウンド	7,122	△	○	○
兎塚小学校グラウンド	9,010	○	△	○
村岡小学校グラウンド	11,439	△	△	○
村岡中学校グラウンド	7,724	△	△	○

（４）福祉避難所 一般の指定避難所では生活が困難な人を受け入れるための場所

施設名	収容人数	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
特別養護老人ホーム「むらおかこぶし園」	44	○	△	○
村岡老人福祉センター	80	△	△	○
リゾートヴィラハチ北	24	○	△	○
グループホーム むらおかの空 デイサービス いそうの花	16	○	△	○

※収容人数は要介護者1名に対し、介助者1名を含む。

《小代区》

（１）指定避難所 ある程度長期の避難が想定される場合に、一定期間滞在するための場所

施設名	面積 (㎡)	収容人数	風水害		地震
			洪水	土砂災害	
香美町立小代小学校（体育館）	720	240	○	○	○
香美町立小代中学校（体育館）	1,194	398	△	△	○
おじろドーム	972	324	○	○	○
小代区総合センター	641	213	○	△	○
旧秋岡へき地保育所	70	23	○	△	○
小代認定こども園	100	33	○	○	○
小代物産館	155	51	○	△	○
温泉保養館おじろん	121	40	△	△	○

（２）一時避難所 災害の危険から緊急的・一時的に避難するための場所

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
神場区集会所	○	△	△
広井区集会所	△	△	△
水間集落センター	○	○	○
野間谷構造改善センター	○	△	○
実山区営農集会所	○	△	○
平野区集会所	○	△	△
茅野多目的集会施設	○	○	○
新屋活性化交流集会施設	○	○	○
秋岡集落センター	○	△	○
東垣生活改善センター	○	△	△
佐坊区集会所	○	△	○

避難場所一覧（小代区）

施設名	風水害		地震
	洪水	土砂災害	
鍛冶屋区集会所	○	○	△
貫田生活改善センター	○	△	△
忠宮区集会所	△	△	△
久須部区集会所	△	△	○
大谷ふれあいセンター	△	△	○
城山ふるさと交流センター	○	△	○
神水区集会所	○	△	○
石寺集落センター	○	○	○
猪之谷区集会所	○	△	△
旧熱田区集会所	○	△	△

（３）広域避難所 災害が広域にわたった場合に避難するための場所

施設名	面積 (㎡)	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
小代小学校グラウンド	8,000	△	○	○
小代中学校グラウンド	8,511	△	△	○
広井多目的山村広場	10,000	○	△	○

（４）福祉避難所 一般の指定避難所では生活が困難な人を受け入れるための場所

施設名	収容人数	風水害		地震
		洪水	土砂災害	
特別養護老人ホーム「こぶし園」	50	○	△	○

※収容人数は要介護者1名に対し、介助者1名を含む。

「津波てんでんこ」
とは？

「地震があったら、家族のことさえ気にせず、てんでんばらばらに、自分の命を守るために一人ですぐに避難せよ。一家全滅、共倒れになることを防げ」という教えです。

津波に苦しめられてきた三陸地方に残る津波被害から子孫を残すための知恵です。

「津波てんでんこ」は、家族それぞれが避難していることを信じあえていれば、いざというとき、一人ひとりが避難することに専念できるという意味で、「家族の絆」なくして「津波てんでんこ」は成り立ちません。

【津波時避難場所】

区等名	避難場所	海拔 (m)
境	境東駐車場（旧会館跡）	10.9
	今子方面県道	17.4
一日市	岡見公園	26.0
	和田山	20.8
若松	公立香住病院	2.4
	旧ナカケー（下）	7.3
	町道山手若松線東奥広場	—
	若松コミュニティーセンター	6.1
香住	香住文化会館	3.4
	香住区中央公民館	3.4
	月岡公園	29.6
	香住小学校	6.3
	旧香美町役場南庁舎	5.8
西香住	香美町保健センター	5.5
七日市	島山	15.0
	七日市区公民館	5.2
駅前	香美町役場	4.2
	香住第一中学校	4.2
	駅前コミュニティーセンター	6.5
	姫路山付近空き地	—
森	収蔵庫付近	20.5
間室	山野神社	32.0
	墓地の上	32.2
油良	十二社神社	20.0
	ナシ園下	6.8
	但馬最終処分場方面道路（矢田川クリーンセンター付近）	(12.0)
矢田	大山神社	13.5
	集落西側の丘陵地	—
下浜	付近丘陵地	—
	八幡神社	—
九斗	兵主神社	13.2
	墓地	—
	観音堂	—
米地	御堂	18.7
	堰堤	—
相谷	イジンダニ	10.6
	三柱神社	—
	県道記念碑	25.5
奥安木	構造改善センター	20.2
	構造改善センター裏（個人で道をつけているところ）	—

避難場所一覧（津波時避難場所）

区等名	避難場所	海拔（m）
浜安木	大師堂	9.2
訓谷	魚見台	—
	佐津小学校	2.6
	輪峰山	—
	かめや駐車場	17.8
無南垣	八幡神社（社務所）	14.4
	佐古谷方面県道	16.8
	城山	—
	旧香住第二中学校	3.7
浦上	J R 柴山駅	12.5
	県道東側（しばやま荘専用駐車場付近）	7.6
	帰迎寺	8.1
上計	城山	55.4
	墓地	13.6
	八坂神社	40.0
	柴山小学校	18.3
沖浦	大日堂	10.4
	大放神社	15.3
	どい歯科駐車場	13.2
	夕庵上	—
守柄	サクノコ付近裏山	16.8
	区内奥の林道	20.2
	墓地	—
	八幡神社	29.0
加鹿野	八坂神社	46.7
市午	余部ユースホテル跡地	59.3
	白山神社	17.9
梶原	八坂神社下御堂前	—
	梶原公民館	12.2
浜	五反畑	9.8
	J R 余部駅	44.6
	御崎方面町道	6.2
	余部小学校裏の墓地	—
西	八柱神社	10.8
	安養寺	15.1
鎧	J R 鎧駅	40.0
	鎧公民館	34.5

※災害対策基本法第49条の4第1項の規定に基づく指定緊急避難場所に位置づけます。

※避難場所への避難対象者は、避難場所のある区等の住民等に限定するものではありません。

非常備蓄品チェックリスト

品名	点検日	品名	点検日
<input type="checkbox"/> 食料品（缶詰、レトルト食品、インスタント食品、栄養補助食品など）		<input type="checkbox"/> 簡易トイレ、携帯トイレ	
<input type="checkbox"/> 食料品（乾パン、チョコレートなど）		<input type="checkbox"/> 毛布、緊急用アルミシート、寝袋など	
<input type="checkbox"/> 食料品（昔からある保存食など）		<input type="checkbox"/> カイロ、マスク、消毒液など	
<input type="checkbox"/> 水（一人あたり1日3ℓ、3日分）		<input type="checkbox"/> 暖房器具、防寒着など	
<input type="checkbox"/> 燃料（カセットガスコンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど）		<input type="checkbox"/> 洗面用品、歯ブラシなど	
<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ヘッドランプ、ランタン		<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ、トイレトーパーなど	
<input type="checkbox"/> 小型発電機、小型蓄電池、予備バッテリー、乾電池など		<input type="checkbox"/> 筆記用具、予備のメガネなど	
<input type="checkbox"/> 工具類（ロープ、バール、スコップなど）		<input type="checkbox"/> 簡易食器（わりばし、紙皿、紙コップなど）	
		<input type="checkbox"/> 鍋・やかん	
		<input type="checkbox"/> ラップ・アルミホイルなど	

非常持ち出し品チェックリスト

品名	点検日	品名	点検日
<input type="checkbox"/> 非常食		<input type="checkbox"/> ヘルメット	
<input type="checkbox"/> 水（一人あたり1日3ℓ、3日分）		<input type="checkbox"/> 軍手	
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（予備の電池）		<input type="checkbox"/> 防寒着	
<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ヘッドランプ		<input type="checkbox"/> 下着類	
<input type="checkbox"/> 携帯電話、スマートフォン（予備のバッテリー）		<input type="checkbox"/> 携帯カイロ	
<input type="checkbox"/> 救急医薬品		<input type="checkbox"/> ライター（マッチ）	
<input type="checkbox"/> 常備薬、処方箋		<input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り、栓抜き	
<input type="checkbox"/> 貴重品（銀行通帳、カードなど）		<input type="checkbox"/> ティッシュ（ウエットタイプも）	
<input type="checkbox"/> 現金（10円玉も）		<input type="checkbox"/> 生理用品	
<input type="checkbox"/> 健康保険証のコピー		<input type="checkbox"/> 小型発電機器、小型蓄電池	
<input type="checkbox"/> 住民票のコピー		<input type="checkbox"/> 戸別受信機	
<input type="checkbox"/> 印鑑		<input type="checkbox"/> ろうそく・ランタン	
		<input type="checkbox"/> タオル、ビニール	

● こんな用意もしておきましょう

■ 乳幼児のいる家庭

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、洗浄器、おんぶひも、バスタオル・ベビー毛布、ガーゼなど

■ 妊婦のいる家庭

脱脂綿、ガーゼ、さらし、T字帯、洗浄器・新生児用品、ティッシュ、ビニール風呂敷、母子健康手帳など

■ 要介護者のいる家庭

着替え、おむつ、ティッシュ、障害者手帳、補助具の予備、常備薬、予備のメガネ、緊急連絡先など

わが家の防災メモ

あらかじめ記入し、家族みんながわかるところに置いておきましょう。

火事・救急は

119番

名前は

住所は

目印になる建物は

火事か救急（けが・急病）か

●火事の場合

- なにが燃えているか
- どこが燃えているか
- けが人はいるか

●救急の場合

- どんなようすか
- 出血はあるか
- 意識はあるか

■緊急連絡先 ※下記以外に必要な機関があれば記入しましょう。

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
香美町役場	0796-36-1111	公立香住病院	0796-36-1166
村岡地域局	0796-94-0321	公立村岡病院	0796-94-0111
小代地域局	0796-97-3111		
美方警察署	0796-82-0110		
美方広域消防本部	0796-92-0119		
関西電力送配電(株) 豊岡配電営業所	0800-777-3081		
香美町上下水道課	0796-36-0420		
ガス会社（ ）			

■家族・親戚・友人知人の連絡先

家族の名前	連絡先（勤務先・学校など）	電話番号	携帯電話番号